平成 27 年 9 月 28 日
第４回総合戦略推進会議
資 料 1

第３回会議にかかる

ご意見等について

会議後に書面で提出された意見・提案について

No.	ご意見等
1	【安定した雇用の促進】 雇用促進と定住促進は関連が深く、就業地は市内でも、他の都市でも選択の余地は十分あるが、基本は世帯収入の増加にあると考える。 4つの基本目標は連携するので、施策の方向性は総合的に検討し、策定する必要がある。しかし、施策の核として取り組むべき課題は、雇用の拡大による安定収入の確保である。 特に、女性の安定した雇用と就業しやすい環境づくりが重要かつ喫緊の課題である。新卒採用は無論のこと、シルバー層を含む各世代に相応しい雇用形態・雇用環境を創生することが必要であり、これを実現するための官民の境を超えたネットワークを構築する必要がある。
2	【女性の働きやすさ】 男女共同参画推進の面でも、市内本社の「くるみん企業」はわずか4社であり、官民挙げて増やす（具体的な数値目標を掲げて）必要がある。行政は、採用活動に積極的な企業などに対し、取得を促していくべきである。
3	【市街地再開発】 まちづくりについては、空き家問題中心の議論となったが、横須賀中央や追浜駅周辺の再開発事業は、今回議論を進めている方向性と連動させるべく調整が必要である。 特に、横須賀中央周辺の再開発事業は面積も広大であり、どのようにまちをつくるかは地権者任せでは難しく、行政のイニシアチブが必要である。
4	【長期的な定住施策】 湘南鷹取はまさに、1970年代、当時30～40歳代の子育て世帯が市外から移住してきて、そのまま40年以上の歳月が経ち、今では高齢化地域となってしまったところである。当時は子どもも多く、学校が足りないので小学校を新たに増設したりもしたが、子どもたちは皆巣立ってほとんどが市外に転出し、学校には空き教室が目立っている現状である。 子育て世帯をいくら呼び込んでも、その子どもたちがまた市外に転出してしまったらあまり意味がない。子世帯もまた横須賀市内に住み続けて子どもを産み育てられるような、長期的な戦略が必要だと思う。それにはやはり、学校と仕事の誘致か。
5	【学童クラブ】 目玉施策の一つと思うので、もっと明確に論点整理をして、マスコミや他自治体があっと驚くような施策を打ち出すべきと考える。 例えば、問題点を3つ程度（ex.場所・人・予算）挙げた上で、対応策を明示するということを次回会議で冒頭に実施してほしい。個人的には「場所」は学校活用、「人」は教員OB、予算は2人目半額、3人目以降全額補助くらいのメリハリのある活用を考慮すべきではないかと思う。 **※p4をご参照ください**
6	【学童クラブ】 若い世代にとって「住みやすいまち」「住みたいまち」にしていくことは、「人口減少に歯止めをかける」という目的を果たすために大変重要なテーマである。 しかるに学童クラブは、男女共稼ぎ世帯には必要不可欠な仕組みであるにもかかわらず、他の地方公共団体に比べ大きく見劣りしているのではないか？ 現状の学童クラブは、「民設民営」であり利用者の負担が大きすぎる。「公設公営」もしくは「公設民営」とし、利用者の負担を減らし、かつ必要な学童クラブ数を確保すべきと考える。
7	【情報整理】 構成員に男性が多いせいなのか、委員の育児や学童などに関する関心や知識が少ないような印象を受けた。もう少し情報提供いただけた方が議論の焦点が定まるように感じた。

No.	ご意見等
8	【空き家を含めた既存ストックの有効活用、流動化の促進】 第3回会議でも意見が出たが、住まいに関して需要と供給のマッチングをより促進できたら良いと思う。 横須賀市で既に取り組んでいるネット上の「谷戸モデル地区空き家バンク」による情報提供も有効かと思うが、さらに住宅所有者の持ち家に対する意向(リフォームして住み続ける、賃貸、売却等)の相談にのり、対応を進めていくことで、空き家となる前の早い段階で住宅市場に情報提供が可能となるのではないだろうか。 そのためには、行政や民間の様々な業種が適切に情報を共有し対応していく仕組みづくりを検討してはどうかと思う。この取り組みは、住宅対策のみでなく、生活関連サービスの充実にもつながり、まちの付加価値の向上も期待される。
9	【基本的な方向性－具体的な施策の立案に当たっての基本姿勢】 ①本市が持つ特性・地域資源を最大限に生かす。 谷戸、坂道、丘陵等他都市では、地域資源として前向きにとらえられているが、本市においては、生活上の負担としてネガティブにとらえられている地形上からの地域資源を改めて見直し、ネガティブからポジティブにとらえ直す。 つまり、強み(○)は今後とも活かして、弱み(●)は強み(○)に変える。そして横須賀の特徴・資源をすべて強み(○)に変える。 略して「横須賀市総合戦略　オセロプロジェクト　黒(●)から白(○)へ」はどうか？何か戦略を一言で表すキャッチフレーズが必要かと思う。 ②企業、研究機関、教育機関などさまざまな機関や、国・県・他市町村との連携を強化する 横須賀市行政上の技術的アドバイザーとして連携するのはどうか？また、市民に対しては、研究機関の出前講座、市民大学への講座設定による協力が考えられる。
10	【基本目標①】 ＜具体的な施策　③域外からの新しい需要を獲得する＞ 基本方針とキャッチフレーズが必要かと思う。 まず、「横須賀市発展150年の歴史、横須賀市の海・地形等自然環境を最大限に生かし、域外からの新たな需要を獲得する。」という基本方針を明確にすべき。 その上で、「谷戸、坂道、丘陵等他都市では地域資源として前向きにとらえられているが本市においては生活上の負担としてネガティブにとらえられている地形上からの地域資源、自衛隊・米軍、古い施設などを改めて見直し、ネガティブからポジティブにとらえ直す。つまり、強み(○)は今後とも活かして、弱み(●)は強み(○)に変える。そして横須賀の特徴・資源をすべて強み(○)に変える。略して「横須賀市総合戦略　オセロプロジェクト　黒(●)から白(○)へ」を進める。」と言いつつ、ここの施策の記述に入ってはどうか？
11	【基本目標②】 ＜具体的な施策　①子育ての環境の充実＞ ・子育て支援も重要だが、やはり義務教育の充実が必要かと思う。目標を立てるべきかと思う。 例えば、「私立に頼らず公立学校が基本となる義務教育の充実した横須賀市。全国学力テスト5ポイントアップ」など。(先生の覚悟が必要だが、難しいかも。) ・地域との連携・協同も重要かと思う。例えば、農業体験を小学校や中学校の修学旅行でわざわざ会津や信州に行かずに、横須賀市内で年間を通して体験できる体制を地域と協同で行うなど。 ＜具体的な施策　②住環境の充実＞ 今後の人口減に対応するには、やはり横須賀市内に多数立地する研究機関の若手が市外から通勤している状況を是正することが重要。市内に宿舎でもよいので、短期間でも住んでみれば横須賀市の良さがわかり、そのいくらかは定住することも期待できる。是非とも、市の方で、「横須賀市立地研究機関用共同宿舎(寮)」(異業種研究機関が入り研究者交流ともなる。)の整備をお願いしたい。周辺のマンション等よりいくらか格安の方が望ましい。 ＜具体的な施策　③「住むまち」としてのイメージの向上＞ 「常に先進的な取り組みにチャレンジしていく」に大賛成である。最近はテレビで、自衛隊・米軍など横須賀のネガティブがポジティブに放映されたり、かなり変化が生じていると思う。この機会に一気に進むべきかと思う。

No.	ご意見等
12	【基本目標③】 ［2　施策の方向性］ 　市役所が行うことだけでなく、住民、地域の協力が不可欠であるので、地域の参加・協働も前面に掲げる方がよいと思う。
13	【基本目標④】 ［1　現状・課題］ ・施策の方向性にも共通するが、空き家等対策・都市のコンパクト化は、「横須賀の150年の歴史の特徴である谷戸　と、戦後の東京圏拡大と都市化による丘陵地等大規模住宅開発地の2つに分けて考えることが重要かと思う。 ・現状については、課題だけでなく、今起こっている新しい動き、谷戸での大学生やオフィスの立地の動きなどポジティブな動きも記載する方がよいと思う。 ［2　施策の方向性］ 　谷戸地域は、高齢化の一方で新たな動きもあることから、1つの谷戸を1単位として、谷戸地域づくり計画とか、地域住民も主体的に参加した計画づくりはできないものだろうか。

＜参考資料＞　横須賀市における放課後児童クラブ（学童クラブ）について

１　放課後児童クラブの概要

（１）放課後児童クラブの内容

放課後児童健全育成事業は、児童福祉法第６条の３第２項の規定に基づき、小学校に就学している児童であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに対し、授業終了後に適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図ります。

（２）横須賀市の放課後児童クラブ

横須賀市の放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）は、昭和 38 年に始まり、平成３年からは学校開放の一環として事業が始まりました。

市内の学童クラブは全て民設民営であり、保護者会や法人などが事業者となり指導員を雇用し、運営しています。市では一定の要件を満たした学童クラブに対して、運営費などの補助をしており、平成 27 年度、補助金を受けている学童クラブは 58 クラブあり、約 1,600 人の小学生が利用しています。

学童クラブでは、安全面に配慮しながら子どもが自ら危険を回避できるようにしていくとともに、子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるように、自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等により、子どもの健全な育成を図ります。

学童クラブの実施場所は小学校の余裕教室、マンション、民家、空き店舗などです。今後、市立小学校の余裕教室を利用する学童クラブを増やしていく予定です。

２　平成 27 年度市内放課後児童クラブ設置状況

横須賀市内における放課後児童クラブの設置状況は、次のとおりです。

項　目	内　　容
設置数	59 クラブ（民設民営）
運営主体	①運営委員会 24 クラブ　②保護者会 16 クラブ ③社会福祉法人５クラブ　④個人 12 クラブ ⑤任意団体２クラブ
設置場所	①小学校余裕教室 17 クラブ　②民家・アパート 11 クラブ ③商店街空き店舗 19 クラブ　④保育所・幼稚園等５クラブ ⑤その他７クラブ
登録児童数	1,636 人（市立小学校児童数 19,589 人）
月額利用料（平均）	17,360 円

３　放課後児童クラブの整備に関する考え方（横須賀子ども未来プラン）

今後、利用児童数の増加が見込まれることから、学童クラブの量の拡充と質の向上を図るため、下記の確保方策を進めていきます。

①学童クラブの小学校移転促進、積極的な運営支援や新設支援をさらに進める。

②補助制度の充実や保育料の軽減を図る。

③放課後児童指導員の研修会を開催し、子どもとの接し方や指導についての知識と技術向上を図る。

④放課後児童クラブ運営に携わる関係者の負担を軽減するとともに、地域の学校法人や社会福祉法人等の参入を促進する。

４　予算措置状況（平成 27 年度）

（１）学童クラブ助成事業　　369,415 千円

民間学童クラブへの助成を行います。

・学童クラブ数　54 クラブ→59 クラブ
・運営費補助
・日数加算・長時間開設加算
・障害児受入れ加算・障害児受入れ特別加算
・家賃補助
・ひとり親世帯利用料割引加算
・兄弟姉妹利用料割引加算
・指導員研修受講費補助
・設立時補助（備品・礼金・家賃・指導員雇用経費）
・防災用備品等購入補助
・指導員研修の実施

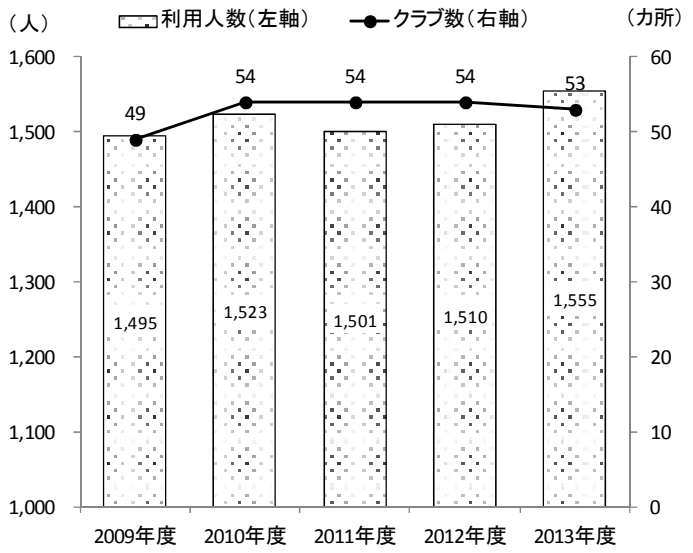
（２）学童クラブ小学校移転事業　　14,076 千円

小学校の教室を学童クラブ用に改修し、提供します。

・今年度改修校　公郷小学校
・現在、小学校の教室を利用している学童クラブ数　17 クラブ

18　学童クラブの利用状況

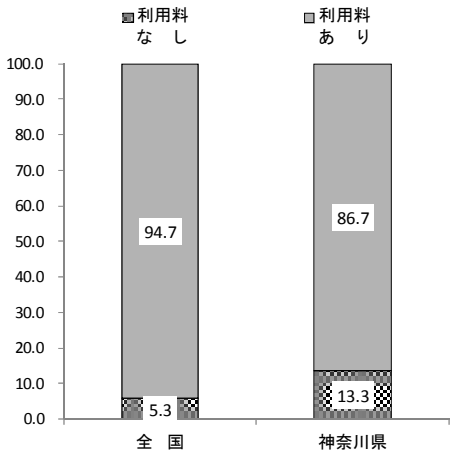
○ 利用者は緩やかに増加傾向にある一方、クラブ数は近年横ばい

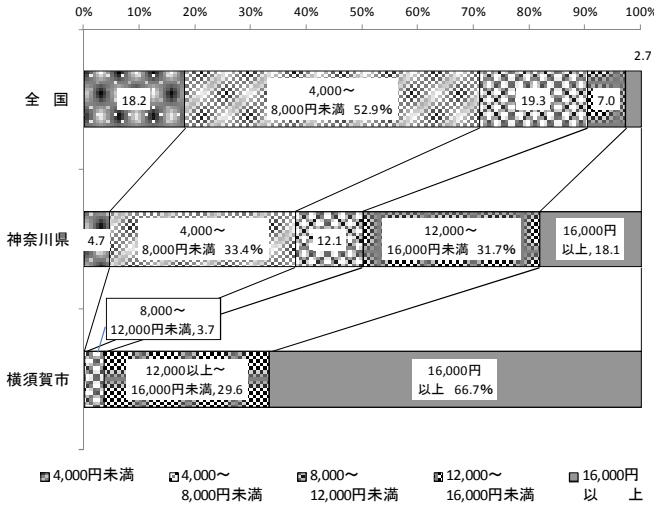


出所）横須賀市（2015）「横須賀子ども未来プラン（平成27年度～平成31年度）」をもとに作成

19　学童クラブの利用料金比較

○利用料金のない自治体は少数
○本市のクラブは全て民設民営のため、利用料金の高いクラブの割合が多い
　また、全国でみると8,000円未満／月のクラブが大半を占めている中で、
　本市にはそのようなクラブの存在がない





出所）厚生労働省「平成23年度地域児童福祉事業等調査」をもとに作成